

久留米教区

親鸞聖人入門講座

テキスト

— 関 東 —

私たちの宗旨は浄土真宗です

- 【本尊】 …阿弥陀如来
- 【正依の経典】 …仏説無量寿経（大経）
※三部経 仏説観無量寿経（観経）
仏説阿弥陀経（小経）
- 【宗祖】 …親鸞聖人
- 【宗祖の主著】 …顕浄土真実教行証文類（教行信証）
- 【宗派名】 …真宗大谷派
- 【本山】 …真宗本廟（東本願寺）

※親鸞聖人の伝記には、不明確な部分が多く、ことがらによっては諸説あるものもあります。本テキストでは、『浄土の真宗』、『親鸞 生涯と教え』、『親鸞聖人伝絵 一御伝鈔に学ぶ一』、『はじめて読む 親鸞聖人のご生涯』（以上、東本願寺出版）、『まんが宗祖親鸞聖人』（難波別院）、『親鸞聖人 御絵伝を読み解く』（法蔵館）を参考にしました。

関 東



建暦元年（1211）、親鸞聖人は流罪を許されましたが、京都へは戻られず、越後にとどまられました。その後、建保2年（1214）42歳のころに、家族をともない関東へ向かわれました。

信濃（長野県）、上野（群馬県）を通り、常陸（茨城県）へと向かわれる途中、上野佐貫で飢饉に苦しむ人々のために、① _____ ※1 千部読誦をはじめられました。しかし数日後に「② _____ の他には、何事の不足にて、必ず経を読まんとするや」（『恵信尼消息』）と思ひ返されてやめられました。聖人は自力の信の根深さに気づかされ、専修念仏の教えと向き合い、自分自身を見つめなおしていかれました。

関東に入られた聖人は、常陸の稲田に草庵を結ばれました。

当時の関東の人々は、病気や災難からのがれるために、^{きとう}祈祷などの^{じゅじゅつてき}呪術的な宗教に頼っていました。そのような人々のために、聖人は迷信に惑わされることのない念仏の教えを、説きひろめていかれました。

そのころ、^{いたじきやま}板敷山で祈祷によって数多くの信者を従えていた^{やまぶし}※²山伏の^{べんねん}弁円がいました。念仏の教えが広がることで、自分の立場がおびやかされた弁円は、聖人を恨み、ついには殺そうと草庵へ乗りこみました。しかしそのような弁円を、聖人はこころよく迎え入れました。そのすがたに^{かんめい}感銘を受け、自らの誤りを知らされた弁円は念仏者となり、^{みょうほうぼう}明法房という名をいただきました。

聖人の教えは関東全域にひろがり、念仏の^{さんが}僧伽が誕生しました。また、この関東の地において③『.....』の執筆がはじめられたとされています。

◇補 注

※¹ お経などを声に出して読む。千部読誦とは、繰り返し千回読むこと。

※² 山岳で修行することによって超自然的な力を得て、その力を用いて呪術や祈祷などを行う修験者。山に伏して修行をすることから山伏といわれた。

三部経千部読誦

上野佐貫こうづけさぬきで起こった出来事を、寛喜3年（1231）、59歳の親鸞聖人が再び思いだされています。そのときの様子を『恵信尼消息』えしんにしやうそくが伝えています。聖人は風邪を引き、熱が出て苦しむ中で夢うつつに、『大無量寿経』だいむりやうじゆきやうを読誦どくじゆされます。このとき聖人は、佐貫での三部経千部読誦さんぶきやうせんぶどくじゆのことを思いだし、自分自身の自力じりきの心の根深さを見つめられ、『大無量寿経』を読誦することをやめられたのでした。

経典を読誦する2つの出来事には、法然上人の「ただ念仏して、阿弥陀仏にたすけられよ」という教えきえに帰依したにもかかわらず、その教えを見失い、念仏以外のものを求めている聖人の姿がありました。聖人は、42歳のときの三部経千部読誦と59歳のときの出来事を通して、あらためて法然上人の専修念仏せんじゆねんぶつの教えに立ち返り、自分自身を見つめていかれたのです。

関東における僧伽

約20年に及ぶ親鸞聖人の伝道生活でんどうによって、関東の地には、やがて性信しやうしんを代表とする横曾根門徒よこそねもんや、真仏・顕智しんぶつ けんちを代表とする高田門徒じゆんしん、順信じゆんしんを代表とする鹿島門徒かしまもんというような、聖人から直接教えを受けた門弟たちを中心に、念仏に生きる人々の集いが生まれていきました。その数は数千人とも数万人ともいわれ、『親鸞聖人門侶交名牒』もんりよきやうみやうちやうには、関東の門弟たちの名前が300人以上挙げられています。その中には『歎異抄』たんにしやうの作者として知られる唯円ゆいえんの名前も含まれています。

門弟たちは、毎月25日の法然上人のご命日になると集まり、親鸞聖人も同朋・同行どうぼう どうぎやうの一人としてともに念仏の教えを確かめあいました。それはまるで、「承元じやうげんの法難ほうなん」で失われた、かつての吉水の僧伽さんがを受け継ぐような念仏者の集いでありました。

☆話し合いのポイント例

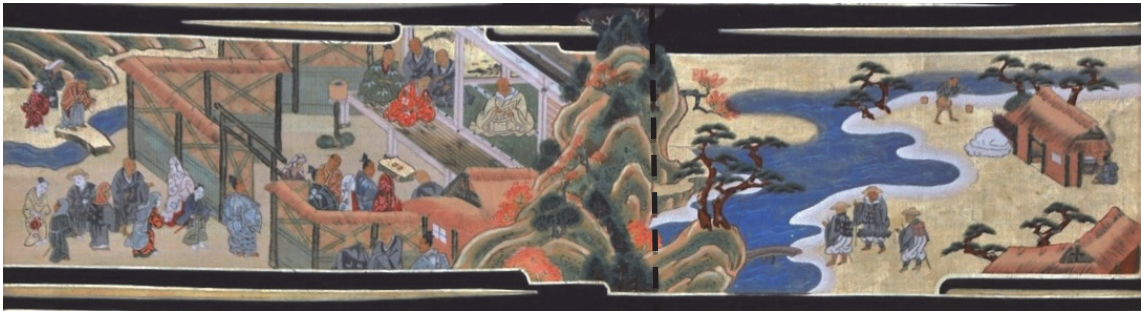
- 人と意見が違うとき、どうしますか？
意見の違う人と、どうやって付き合っていますか？
- お経を読むのはどんなとき？
- あなたの知ってる気になる風習（しきたり・ならわし）

親鸞聖人足跡関連地図



×モ

『御絵伝』について 三幅（第十四図）



左図 いなだこうぼう
稲田興法

右図 えちごじゆんしゃく
越後巡錫

右図では、親鸞聖人たちが錫杖しゃくじょうを持って、国府こくぶから北越ほくえつあたりへ巡行される場面です。日本海を背にして、中央に聖人、左に西仏房さいぶつぼう、右に蓮位房れんにぼうが描かれています。

建保2年（1214）のころ、聖人は越後をあとに関東へ旅立たれ、常陸国笠間郡稲田ひたちのくにかさまのこおりいなだに草庵を結ばれました。左図はそこでのご教化きょうけの場面になります。筑波山脈つくばさんみやくを背にして、右奥におられるのが聖人、脇に西仏房しょうぶんぼうと性信房しょうしんぼうが黒衣を着て座っています。

草庵には道俗男女貴賤どうぞくなんによきせんを問わず、多くの人びとが訪れていました。聖人のご教化は関東全域から東北までおよび、念仏の教えは多くの人に伝わっていきました。

『御絵伝』について

三幅（第十五図）



左図 べんねんさいど
弁円濟度

右図 いたじきせつけ
板敷掇化

東国地方は古来より修験道しゅげんどうが盛んで、板敷山いたじきやまもその地でした。しかし念仏の教えが広まることによって、多くの人びとが修験者から離れていきました。頭領べんねんの弁円（右図の左の人）たちは聖人おんてきを怨敵とみなし、捕らえようと待ち伏せをしました。しかし、聖人の念仏の声は聞こえるが、姿を捉えることができませんでした。

やがて弁円は殺害を企てて刀杖とうじょう たずきを携え、稻田の草庵にのりこみました。しかし逃げもせず目の前に現れた聖人は、弁円を快く迎え入れました。その姿に感銘した弁円はその場にひれ伏しました。左図の右半分がその場面です。左半分は、弓矢を折り刀杖を捨てて聖人の弟子となる姿が描かれています。

親鸞聖人ゆかりの地紹介

◇稲田草庵（西念寺）

関東に移られた聖人は、稲田に草庵を結び、恵信尼公や子どもたちと共に生活をはじめられました。約20年間にわたる関東での布教の拠点が、この草庵になります。

また『教行信証』の撰述は、この地ではじめられたと伝わります。



近くには、聖人が帰洛の際に別れを惜しみ振り返ったと伝わる「見返り橋」があります。

稲田の西念寺から鹿島方面に向かうと山伏弁円の板敷山があります。

所在地／茨城県笠間市稲田469 交通案内／北関東自動車道「笠間西」から車5分

◇専修寺（高田派・下野旧本山）

嘉禄2年（1226）に聖人が、長野の善光寺から一光三尊仏を迎えて本尊としたのがはじまりといわれます。

境内には江戸時代に再建された建物群があるほか、聖人をはじめとする歴代上人の墓石がある御廟所があります。



聖人の帰洛後は、門弟の真仏房を中心に高田門徒が形成されました。三世の顕智房は聖人直弟子の一人で、聖人入滅の際に葬儀を執り行いました。

また寛政6年（1465）に十世の真慧が、伊勢国（三重県）に専修寺を創建し高田派の本山と定められて以降は、下野旧本山と呼ばれています。

所在地／栃木県真岡市高田1482 交通案内／真岡鉄道「久下田」下車、車10分